キラリ 熱中時間

深谷市にゆかりがあり、市内外で活躍する個人や団体を紹介します。

福澤諭吉記念 第63回 全国高等学校弁論大会に出場！

深谷高等学校3年
村田琉偉（むらたるい）さん

経験を言葉に乗せて渋沢栄一翁を伝える

令和6年12月6日に、旧1万円札の肖像『福澤諭吉』の故郷である大分県中津市で、全国の高校生を対象に長年行われている『福澤諭吉』の冠が付いた由緒ある弁論大会に、1万円札の肖像ゆかりの地の交流として、深谷高校の村田さんが出場しました。

「弁論大会は初出場で、不安もありました。」と言う村田さんは、「高校生活の貴重な経験になるよ。」と背中を押してくれた家族や、応援してくれる友人、先生の言葉を胸に、「他県の人にも渋沢栄一翁の魅力を知ってほしい。」と、強い気持ちで大会に挑みました。

栄一翁が主人公の大河ドラマ『青天を衝け』から着想を得た弁論の題名は、『晴天のその先に』。栄一翁の功績や著書『論語と算盤』を通して考えたことを自分の言葉にまとめ、2カ月かけて原稿を作成しました。最も伝えたかったことを聞くと、「『論語と算盤』に出てきた『蟹穴主義（自分の身の丈を知る）』という考え方です。カニが体に合う穴を掘り、すみかとするように、これから社会に出る高校生は、さまざまなことにがむしゃらに挑戦することで、自分自身を知り、身の丈を知ることにつながると思ったからです。」と語る村田さん。出場の感想を聞くと、「自分の意見をしっかり言うことの大切さを学び、栄一翁をより身近に感じ、誇りに思いますし、これから自分なりに社会に貢献していきたいです。」と話してくれました。

▲約900人の観客の前で、壇上から自分の考えを、自分の言葉で堂々と『弁論』する村田さん

3年間、部活に生徒会と、がむしゃらに挑戦してきた村田さんの経験と思いが乗った言葉は、深谷、そして日本の未来につながっていきます。

ふっかちゃんの日常から深谷が見えてくる ふっか散歩

137 友好都市巡り～群馬県富岡市編②～

今回は、11月号の続き！深谷市と友好都市になっている富岡市を紹介するよぉ。まずは、『富岡市妙義ビジターセンター』にやってきたよぉ。大正12年から国の名勝に指定されていて、ダイナミックな姿が特徴の『妙義山』が一望できるんだぁ！

▲3階の展望ラウンジからは、妙義山が大迫力で見られるよぉ。

▲『MYOGI』の文字と妙義山と一緒に写真を撮ったよぉ。ハイねーぎ！

▼中庭の前でパシャリ！

▲最後は、『富岡市立美術博物館・福沢一郎記念美術館』へ！6つある展示室には貴重な作品や資料がいっぱいあったよぉ。

ふっかちゃんのつ・ぶ・や・き

あけおめ～ことよろ～！新年早々、お餅におせち料理、お雑煮ヾ(o≧ω≦o)ﾉ
たくさんおいしい物が食べられて幸せだよねぇ！

男女共同参画情報コーナー

ともに認め合い 支え合う 元気と笑顔で参画するまち ふかや

問人権政策課（☎574 － 6643）

事業所に『男女共同参画推進員』を設置しませんか

深谷市では、市内事業所における男女共同参画を推進するため、各事業所に『男女共同参画推進員』の設置をお願いしています。男女共同参画推進員には、市や県が行っている『女性活躍』や『ワーク・ライフ・バランス』に関するセミナーのお知らせなど、男女共同参画に関する情報を提供しています。令和6年4月1日現在、市内で140の事業所が男女共同参画推進員を設置しています。

『深谷市女性活躍等推進事業所認証制度』を推進しています

深谷市では、女性の活躍や男女共同参画の推進に積極的に取り組んでいる市内事業所を『深谷市女性活躍等推進事業所』として認証する制度を設けています。認証事業所になると、広告や名刺などに、認証事業所のシンボルマークを表示できるため、事業所のイメージアップにつながります。

併せて、これらの事業所を広報やホームページで周知するなどの支援も行っていますので、興味のある事業所のかたは、問い合わせ先へご連絡ください。

▲『女性活躍等推進事業所』認証シンボルマーク

これまでに『深谷市女性活躍等推進事業所』として認証した13事業所

深谷赤十字病院　たつみ印刷株式会社　パーカーアサヒ株式会社　三菱電機ホーム機器株式会社
KYB株式会社熊谷工場　古郡ホーム株式会社　医療法人好文会　社会福祉法人邑元会あかつき
株式会社UACJ深谷製造所　社会福祉法人埼玉のぞみの園　株式会社大慶堂
株式会社LIXILサンウエーブ製作所深谷工場　リケンテクノス株式会社埼玉工場

心の広場

本郷小学校3年（現4年）
内田　夏綺（うちだなつき） さん

電車の中で

私が、お母さんのじっ家に行った時の話です。地下てつに乗って水ぞくかんへ行くことになりました。地下てつに乗った時は、もうまんいんですわるせきが空いていませんでした。

「ずっと立ったままで大へんだな。」

と思っていたら、近くにいたおねえさんが、せきをゆずってくれました。私は、

「おねえさんやさしいな。」

と思いました。つぎの駅にとまった時、足がふ自由なおばあさんが乗ってきました。私は、せっかくおねえさんにせきをゆずってもらったけれど、おばあさんが大へんそうに見えたので、せきをゆずってあげることにしました。そうしたら、おばあさんが、

「ありがとう。」

と言ってくれました。私は、とてもうれしかったです。

今までは、つかれている人がすわっていればいいと思っていたけれど、大へんそうな人をたすけて、せきをゆずってあげたら、ゆずってもらった人が、とてもうれしそうにしていたので、自分もうれしくなりました。おばあさんをたすけられてよかったと思いました。

私は、電車の中で、せきをゆずる立場とゆずってもらう立場のりょう方を体けんして、ゆずるがわもゆずられるがわもうれしくなるということがわかりました。おねえさんにたすけてもらったことで、おばあさんのうれしい気もちがよくわかりました。

その人の立場になって考えるとその人の気もちを想ぞうすることができます。

あい手の気持ちを考えて行動することで、人をたすけることができたり、友だちとなかよくすごしたりできます。みんなが、あい手の気持ちをわかってあげられたら、一人ひとりがしあわせに生活できると思います。そのために、まずは私が、自分からすすんで声をかけて、こまっている人の力になってあげたいです。